パネルディスカッション　人財確保と産学連携

共同研究にとどまらず、産学官連携をもっと活用できないか―千葉産業人クラブ（伊藤瑛会長）は、日本機械学会千葉ブロック（片岡眞澄ブロック長）と共催で、千葉県内の産・学・官の関係者を交えたパネルディスカッションを開いた。それぞれの立場から、県内産業発展のカギを握る人財の育成と確保についてもらい、インターンシップの導入事例などを交えて語ってもらい、産学官連携の新たな可能性を探った。

出席者

パネリスト

(財)千葉県産業振興センター東葛テクノプラザ所長　高田　喜正氏

日本機械学会千葉ブロック長・千葉工業大学教授　片岡　眞澄氏

(株)ファソテック社長　長見　茂氏

(株)小出ロール鐵工所専務取締役　小出　明治氏

コーディネーター

日本大学教授　邉　吾一氏

実益ある制度確立せよ

長見　茂氏

邉　最初に自己紹介と人の育成、確保に関するご意見をお願いします。

長見　当社は84年に10人で創業しました。現在社員は169人です。98年に船橋から幕張へ移転しました。船橋にいたころは人材確保に苦労しました。毎年卵走きき、最近では毎年4、5人の採用ができるようになると、大学の先生方に室にこないように何とかしてもらうように頼んだものです。それでも新卒者の応募が頼みで研究者の応募がなくて、大変苦労しました。

ところが幕張に来ると、10、10人の応募があるというような状況に一変、今年も約20人の新入社員がありました。苦労した15年間でしたが、ここの6年間で社員がほぼ倍になりました。

新卒の応募は、現在41企業、最近は外部の力も借りて、ホームページを開いて、学生の10校という形で第2期のスタートを迎えております。

当社は千葉県習志野市で金属機械加工を中心にしてやっています。非常に人材が集まりにくい業種です。70年に習志野に移転後、人材確保がさらに厳しくなりました。25年ほど前から、採用担当者を置いて、ブラザ内にある測量会社に直接採用をしてもらいました。

小出　当社は千葉県習志野市で金属機械加工を中心にしてやっています。非常に人材が集まりにくい業種です。70年に習志野に移転後、人材確保がさらに厳しくなりました。25年ほど前から、採用担当者を置いて、ブラザ内にある測量会社に直接採用をしてもらいました。

邉　産学連携、共同研究について小出専務、長見社長からなにかございますか。

長見　当社は、いろいろとお考えがあるんですが、大学と共同研究をしております。企業としては困ってることは多々ございます。

小出　私共は共同研究をしておりません。企業としては困ってることは多々ございます。

邉　千葉大工学部の加藤秀雄先生、産学連携の共同研究について先生の考え、経験を尋ねたいのです。

加藤　全国の国立大学法人化後3カ月間は共同研究、3カ月毎に開いております。さらに専門ごとに分科会を作りました。研究の糸口にしたいと思っています。

邉　産学の共同研究の実際の成功例として、会場の坂口教授に紹介を頂く同研究について先生の話を頂きたいのです。

坂口　我々は、東大の物性研究所で共同研究という形をとっています。

邉　産学の共同研究の実際の成功例として、会場の坂口教授に紹介を頂く同研究について先生の話を頂きたいのです。

坂口　我々は、東大の物性研究所で共同研究という形をとっています。

邉　もうひとりだ、木村先生のようにお願いします。

大藤　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。

大藤　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。

邉　人財交流をきめ、ニーケーションする場を持ってません。だからインターンシップと就職はいいなにも固いものではなく、ちょっと企業と大学の交流をやってもらいたいと思っています。

邉　人財交流をきめ、ニーケーションする場を持ってません。だからインターンシップと就職はいいなにも固いものではなく、ちょっと企業と大学の交流をやってもらいたいと思っています。

片岡　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。3ヵ月毎に開いております。ので、我々の研究と皆さんの要望が合えば、研究の糸口にしたいと思っています。

片岡　眞澄氏

学生の受け入れ促進を

邉　産学連携、共同研究について小出専務、長見社長からなにかございますか。

長見　当社は、いろいろとお考えがあるんですが、大学と共同研究をしております。企業としては困ってることは多々ございます。

小出　私共は共同研究をしておりません。企業としては困ってることは多々ございます。

邉　千葉大工学部の加藤秀雄先生、産学連携の共同研究について先生の考え、経験を尋ねたいのです。

加藤　全国の国立大学法人化後3カ月間は共同研究、3カ月毎に開いております。さらに専門ごとの分科会を作りました。研究の糸口にしたいと思っています。

邉　産学の共同研究の実際の成功例として、会場の坂口教授に紹介を頂く同研究について先生の話を頂きたいのです。

坂口　我々は、東大の物性研究所で共同研究という形をとっています。

邉　もうひとりだ、木村先生のようにお願いします。

大藤　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。3ヵ月毎に開いております。ので、我々の研究と皆さんの要望が合えば、研究の糸口にしたいと思っています。

片岡　お話にあるように、産学連携、共同研究をやれればと思います。インターンシップを共同研究の一つの方法として小出専務、長見社長からなにかございますか。

長見　当社は、いろいろとお考えがあるんですが、大学と共同研究をしております。企業としては困ってることは多々ございます。

小出　私共は共同研究をしておりません。企業としては困ってることは多々ございます。

邉　もうひとりだ、木村先生のようにお願いします。

大藤　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。3ヵ月毎に開いております。ので、我々の研究と皆さんの要望が合えば、研究の糸口にしたいと思っています。

片岡　お話にあるように、産学連携、共同研究をやれればと思います。インターンシップを共同研究の一つの方法として小出専務、長見社長からなにかございますか。

長見　当社は、いろいろとお考えがあるんですが、大学と共同研究をしております。企業としては困ってることは多々ございます。

小出　私共は共同研究をしておりません。企業としては困ってることは多々ございます。

邉　千葉大工学部の加藤秀雄先生、産学連携の共同研究について先生の考え、経験を尋ねたいのです。

加藤　全国の国立大学法人化後3カ月間は共同研究、3カ月毎に開いております。さらに専門ごとの分科会を作りました。研究の糸口にしたいと思っています。

邉　産学の共同研究の実際の成功例として、会場の坂口教授に紹介を頂く同研究について先生の話を頂きたいのです。

坂口　我々は、東大の物性研究所で共同研究という形をとっています。

邉　もうひとりだ、木村先生のようにお願いします。

大藤　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。3ヵ月毎に開いております。ので、我々の研究と皆さんの要望が合えば、研究の糸口にしたいと思っています。

邉　インターンシップについて長見社長はどのようにお考えですか。

長見　インターンシップから長期雇用の人材を採用しました。しかし、3週間程度のインターンシップで何が身に付くのか、何が意義があるのかと疑問に感じます。

邉　インターンシップの意義はなんでしょうか。

長見　インターンシップは、企業にとってのメリットは何もありません。あるとよければ早く内定者を決めたいというだけのことです。私どもは、80年代後半から90年代前半にかけて人材を求めるという形をとってもらうのに苦労しましたが、一方、昨年から長岡技術科大学から、半年間のインターンシップを受け入れております。昨年やってみて大変成果上がりました。本人の目的意識が非常に高く、会社にもそれなりの役割を果たしてくれています。今後も継続いきたいと思っています。

小出　インターンシップについては、ベンチャーの体制を構築していかなければならない問題があると思います。当社はこの数年、千葉工大からインターンシップを受けさせていただいております。

邉　小出さん、先程（もの作りの楽しさを若い人に教えている）というお話がありましたが、インターンシップについては、いかがですか。

小出　インターンシップには、メリット、デメリットがあります。小さな会社ですと、通常の業務への支障、コスト、サポートの問題があります。当社の仕事の内容を理解して頂く為に、ベテラン系の業務をお願いしています。しかし、今年は当社で作業標準の作成に力を入れていたので、学生さんには社員と一緒に現場に出てもらい、学生さんに仕事を理解して、一緒に仕事をしていけたらいいなと思います。

邉　学からインターンシップの要請があります。しかし、3週間程度のインターンシップで何が身に付くのか、何が意義があるのかと疑問に感じます。

長見　インターンシップの意義はなんでしょうか。

邉　インターンシップを受けるかどうか疑問があります。

長見　インターンシップは、企業にとってのメリットは何もありません。あるとよければ早く内定者を決めたいというだけのことです。私どもは、80年代後半から90年代前半にかけて人材を求めるという形をとってもらうのに苦労しましたが、一方、昨年から長岡技術科大学から、半年間のインターンシップを受け入れております。昨年やってみて大変成果上がりました。本人の目的意識が非常に高く、会社にもそれなりの役割を果たしてくれています。今後も継続いきたいと思っています。

小出　インターンシップについては、ベンチャーの体制を構築していかなければならない問題があると思います。当社はこの数年、千葉工大からインターンシップを受けさせていただいております。

邉　学からインターンシップの要請があります。しかし、3週間程度のインターンシップで何が身に付くのか、何が意義があるのかと疑問に感じます。

長見　インターンシップの意義はなんでしょうか。

邉　インターンシップを受けるかどうか疑問があります。

長見　インターンシップは、企業にとってのメリットは何もありません。あるとよければ早く内定者を決めたいというだけのことです。私どもは、80年代後半から90年代前半にかけて人材を求めるという形をとってもらうのに苦労しましたが、一方、昨年から長岡技術科大学から、半年間のインターンシップを受け入れております。昨年やってみて大変成果上がりました。本人の目的意識が非常に高く、会社にもそれなりの役割を果たしてくれています。今後も継続いきたいと思っています。

小出　インターンシップについては、ベンチャーの体制を構築していかなければならない問題があると思います。当社はこの数年、千葉工大からインターンシップを受けさせていただいております。

邉　小出さん、先程（もの作りの楽しさを若い人に教えている）というお話がありましたが、インターンシップについては、いかがですか。

小出　インターンシップには、メリット、デメリットがあります。小さな会社ですと、通常の業務への支障、コスト、サポートの問題があります。当社の仕事の内容を理解して頂く為に、ベテラン系の業務をお願いしています。しかし、今年は当社で作業標準の作成に力を入れていたので、学生さんには社員と一緒に現場に出てもらい、学生さんに仕事を理解して、一緒に仕事をしていけたらいいなと思います。

小出　明治氏

学生の目的意識向上を

邉　片岡先生、今の意見について何かありますか。

片岡　お話にあるように、産学連携、共同研究をやれればと思います。インターンシップを共同研究の一つの方法として小出専務、長見社長からなにかございますか。

長見　当社は、いろいろとお考えがあるんですが、大学と共同研究をしております。企業としては困ってることは多々ございます。

小出　私共は共同研究をしておりません。企業としては困ってることは多々ございます。

邉　千葉大工学部の加藤秀雄先生、産学連携の共同研究について先生の考え、経験を尋ねたいのです。

加藤　全国の国立大学法人化後3カ月間は共同研究、3カ月毎に開いております。さらに専門ごとの分科会を作りました。研究の糸口にしたいと思っています。

邉　産学の共同研究の実際の成功例として、会場の坂口教授に紹介を頂く同研究について先生の話を頂きたいのです。

坂口　我々は、東大の物性研究所で共同研究という形をとっています。

邉　もうひとりだ、木村先生のようにお願いします。

大藤　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。3ヵ月毎に開いております。ので、我々の研究と皆さんの要望が合えば、研究の糸口にしたいと思っています。

片岡　お話にあるように、産学連携、共同研究をやれればと思います。インターンシップを共同研究の一つの方法として小出専務、長見社長からなにかございますか。

長見　当社は、いろいろとお考えがあるんですが、大学と共同研究をしております。企業としては困ってることは多々ございます。

小出　私共は共同研究をしておりません。企業としては困ってることは多々ございます。

邉　千葉大工学部の加藤秀雄先生、産学連携の共同研究について先生の考え、経験を尋ねたいのです。

加藤　全国の国立大学法人化後3カ月間は共同研究、3カ月毎に開いております。さらに専門ごとの分科会を作りました。研究の糸口にしたいと思っています。

邉　産学の共同研究の実際の成功例として、会場の坂口教授に紹介を頂く同研究について先生の話を頂きたいのです。

坂口　我々は、東大の物性研究所で共同研究という形をとっています。

邉　もうひとりだ、木村先生のようにお願いします。

大藤　高専ではテクノセンターを中心として産学官連携をやろうと、数十社に入会して頂いています。さらに専門ごとの分科会を作りました。3ヵ月毎に開いております。ので、我々の研究と皆さんの要望が合えば、研究の糸口にしたいと思っています。

鈴木　就職の状況は就職協定の廃止、インターネットの影響により、就職試験の時期が早くなって来ています。以前は企業の人事担当者が直接、学生に相談して、学生に推薦してもらっていたのですが、今は学生さんが直接、学生に推薦の連携が取れていましたが、今は学生が直接に相談メイン、インターネットを活用して推薦の相談して、学生に推薦の先生方に相談しにくいという保してから企業を決定する方は、企業さんの方は歩留まりが悪い。また、学生の卒業研究に支障を来たしているという問題もあります。

邉　片岡先生、今の意見について何かありますか。

片岡　お話にあるように就職があまりに早すぎます。3年生の今こそ、はもう佳境に入っていて、悪いのは学生が直接学生を送れるのでないかと感じています。

高田　産学連携の出方はないかと思います。

邉　ありがとうございます